

令和元年12月期第1四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ：証券コード3913)

<https://www.smedio.co.jp/>

令和元年5月10日（金）

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 連結業績概要	…P3
2. 連結決算概要 (BS)	…P4
3. 形態別連結売上高推移	…P5
4. 連結売上高増減要因(計画比)	…P6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	…P7
6. 研究開発費推移	…P8
7. 本資料の取扱いについて	…P9

本資料中の数値は、単位未満四捨五入で表記しております。
なお、端数処理の影響で、各表の項目の合計と合計欄が一致していない場合があります。

1. 令和元年12月期第1四半期 連結業績概要

単位: 百万円未満切捨て

	平成29年 1-3月期	平成30年 1-3月期	平成31年 1-3月期	前年同期比	
売上高	324	278	222	△55	△19.9%
売上原価	158	136	129	△6	△5.0%
売上原価率	48.8%	48.9%	58.1%	9.2%p	
売上総利益	166	141	92	△48	△34.3%
販管費	140	123	137	14	11.8%
営業利益	26	18	△44	△62	△346.0%
営業利益率	8.0%	6.5%	△19.8%	△26.6%p	
営業外収益	2	0	1	1	268.2%
営業外費用	0	1	0	△1	△90.3%
経常利益	28	16	△43	△60	△355.2%
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	—	—	—	—	
税金等調整前四半期純利益	28	16	△43	△60	△355.2%
法人税等	14	6	2	△3	△62.5%
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—	—	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益	13	10	△45	△56	△528.8%

(売上高) 小規模な開発案件が続いたことや出荷台数が前年同期を下回った影響が大きく、売上高は55百万円の減収となった。

(販管費) 人件費の増加等により、販管費は14百万円増加した。

(営業利益・経常利益) 売上高減少による影響を補えず、赤字となった。

2. 令和元年12月期第1四半期 連結決算概要 (BS)

単位: 百万円未満切捨て

資産	平成29年 12月末	平成30年 12月末	平成31年 3月末	前期末比
現金及び預金	1,218	1,083	1,060	△22
売掛金	57	47	66	18
棚卸資産	245	119	85	△34
その他	13	16	14	△1
流動資産合計	1,535	1,266	1,226	△39
有形固定資産	23	21	24	2
ソフトウェア	39	24	27	2
のれん	117	85	77	△8
その他	1	1	1	△0
無形固定資産合計	158	111	105	△5
投資その他資産	48	50	50	△0
固定資産合計	230	183	180	△2
資産合計	1,766	1,450	1,407	△42

負債・純資産	平成29年 12月末	平成30年 12月末	平成31年 3月末	前期末比
買掛金	28	49	49	0
短期借入金	125	124	93	△31
未払法人税等	27	6	4	△1
未払費用	28	39	48	9
賞与引当金	2	2	6	4
工事損失引当金	—	—	12	12
その他	120	44	48	4
流動負債合計	333	265	263	△2
長期借入金	124	—	—	—
その他	13	8	8	△1
固定負債合計	138	8	8	△1
資本金・資本剰余金	1,174	1,176	1,178	2
利益剰余金	329	219	173	△45
自己株式	△227	△227	△227	—
その他	17	7	11	3
純資産合計	1,294	1,175	1,136	△39
負債・純資産合計	1,766	1,450	1,407	△42

(資産)

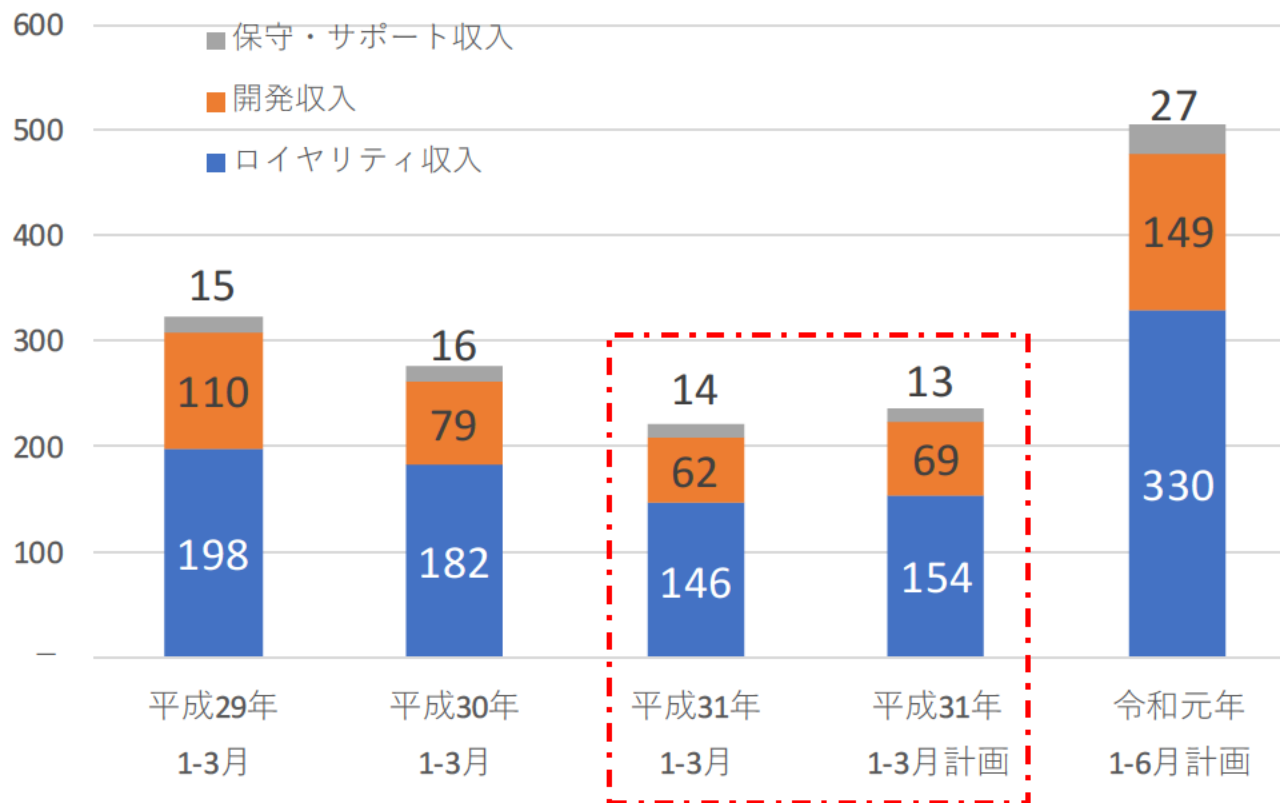
- ・ 棚卸資産は、前払いしたロイヤリティの払い出しによる減少等で34百万円減少した。
- ・ 現預金は、四半期純損失45百万円を計上した影響があり、22百万円減少した。

(負債)

- ・ 約定返済により、短期借入金が31百万円減少した。
- ・ 当第1四半期末に、工事損失引当金12百万円を計上した。

※繰延税金資産・負債は、全て固定資産および固定負債の区分に表示しています。

3. 形態別連結売上高推移



連結売上高合計	324	278	222	238	507
---------	-----	-----	-----	-----	-----

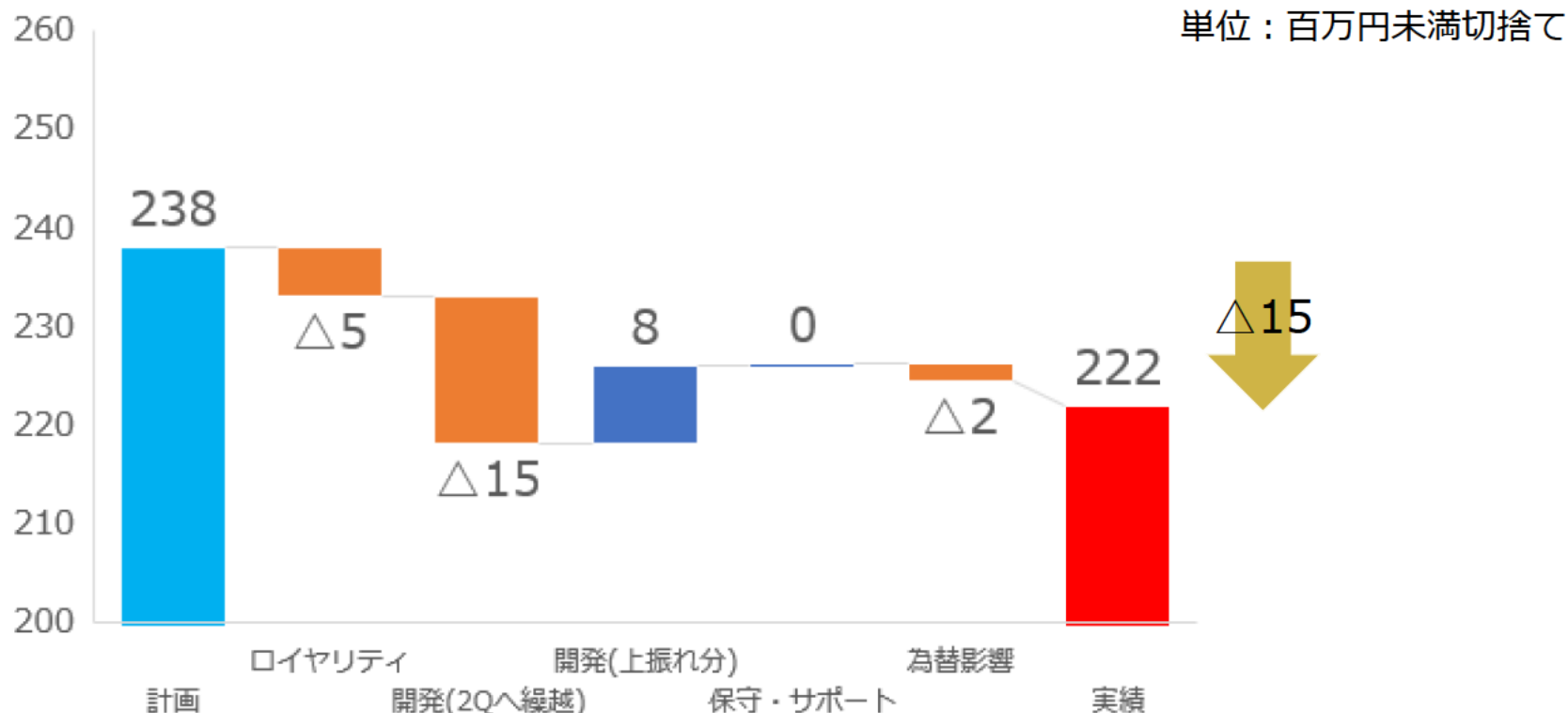
(ロイヤリティ収入)

当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が前年同期を下回ったことで36百万円減少。

(開発収入)

子会社・タオソフトウェアで、小規模な開発が続いたことで16百万円減少。

4. 連結売上高増減要因（計画比）



（ロイヤリティ収入）

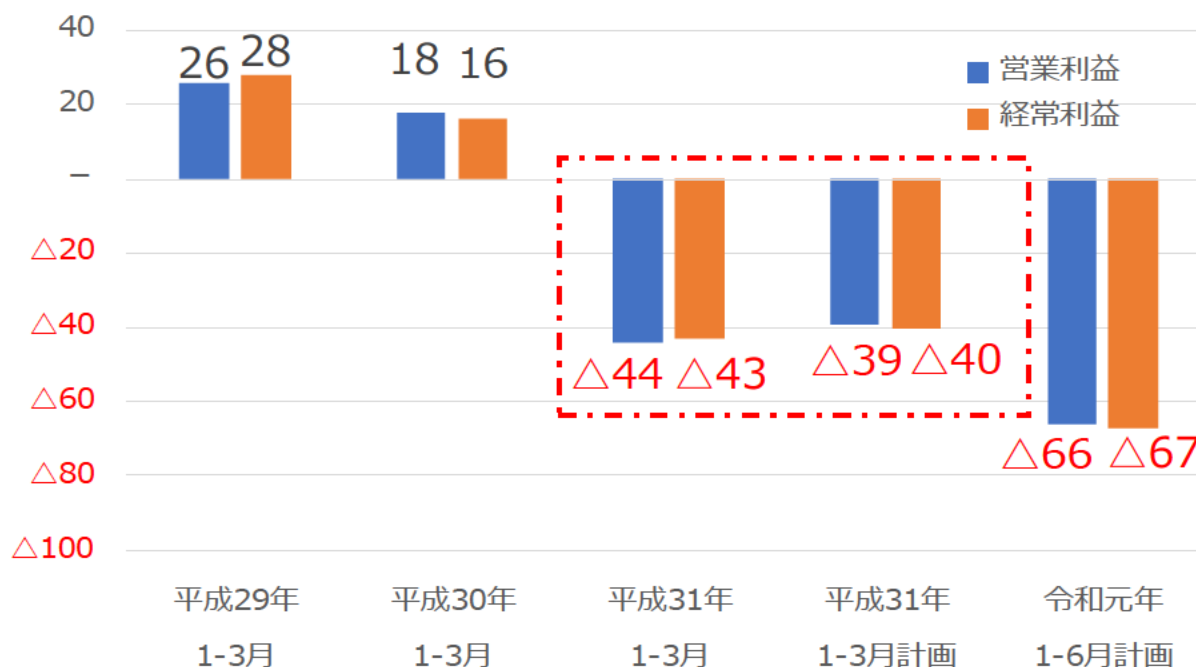
- ・出荷台数が想定に届かなかった製品があり、その影響により、計画比5百万円減少。

（開発収入）

- ・見込みよりも開発規模が少し大きくなった案件が散見された影響以上に、納品が第2四半期にずれ込んだ案件による影響が大きく、計画比7百万円減少。

5. 連結営業利益・連結経常利益推移

単位：百万円未満切捨て

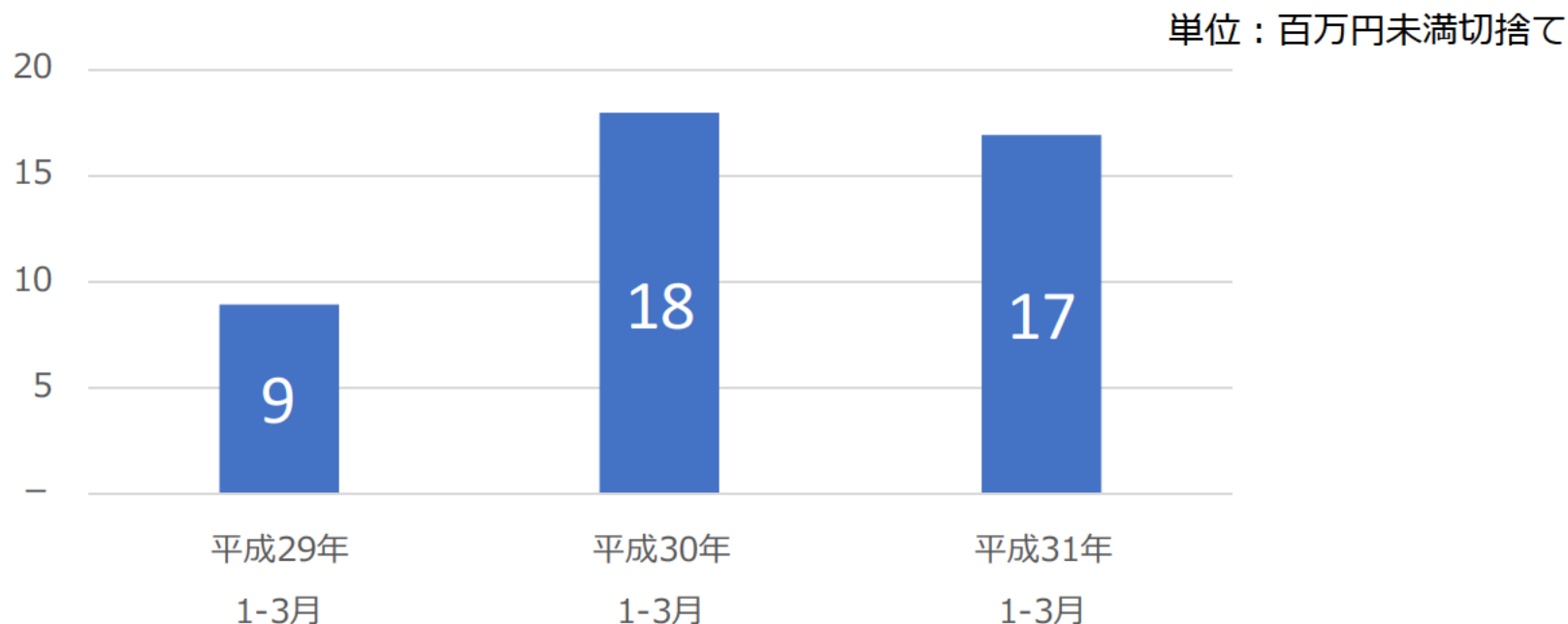


連結営業利益	26	18	△44	△39	△66
連結経常利益	28	16	△43	△40	△67

(営業利益・経常利益)

売上高の減少に加え、開発案件では、仕掛品の評価減9百万円、工事損失引当金12百万円を計上するなど、予想される損失を当第1四半期決算に織り込んだことで、売上原価率が悪化した。その結果、売上総利益が前年同期比48百万円減少したところに、販管費が14百万円増加したことで、営業赤字・経常赤字となった。

6. 研究開発費推移



当第1四半期は、前年同期と同様、主にAI関連とブラウザ関連が研究開発の対象となった。

(注) 当社の研究開発費は、受注決定前までの先行開発期間にかかる内部開発人件費を主としています。そのため、研究開発費の水準の評価にあたっては、受注済案件への開発リソース配分を増やすと、研究開発費は減少する傾向にある点にご留意ください。

本資料は、株式会社sMedio（以下、「当社」といいます。）の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。が、これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。